分岐点を迎えた海賊版対策。 海外勢を徹底的に叩けるか、 再び大爆発を許すか

一般社団法人ABJ 法務部会長 兼 広報部会長 伊東 敦

(集英社編集総務部)

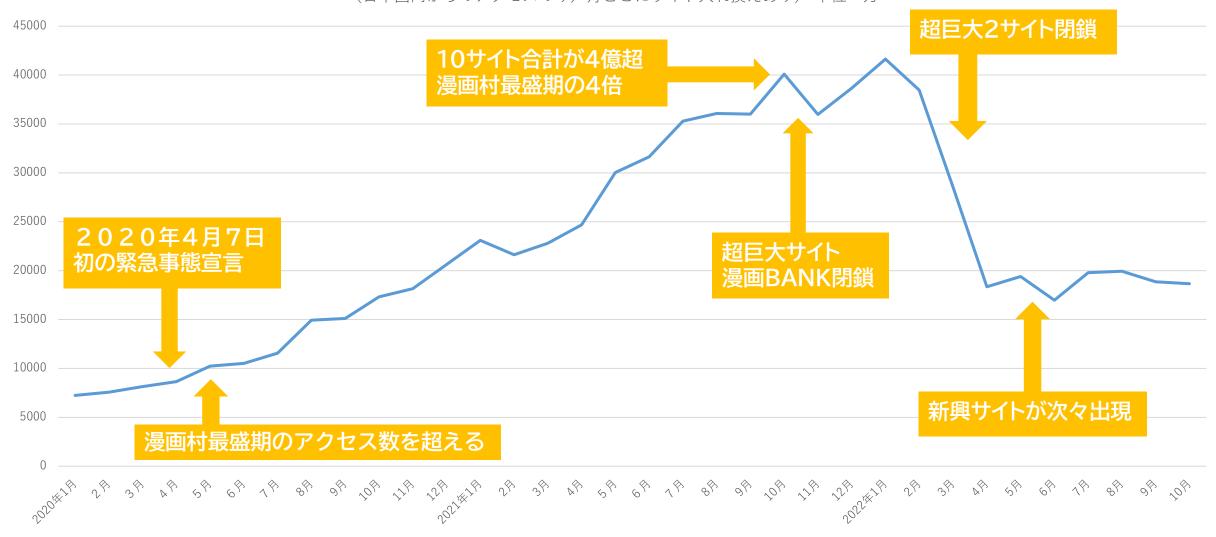
第21期の国際小委から約9カ月 大きく進んだ対策

対策	実施主体
ベトナム系超巨大2サイトの閉鎖	出版社、文化庁、内閣府、警察庁、外務省など
検索エンジンにおける海賊版サイトドメイン全体の非表示	出版社、YAHOO! JAPAN、Google
超巨大サイト「漫画BANK」運営者、中国での行政摘発	出版社、CODA
確信犯的な海外の広告事業者への広告出稿停止要請	出版社、CODA
海賊版サイトにサービスを提供する大手CDNへの訴訟提起	出版4社
漫画村運営者に対する民事訴訟提起	出版3社、ACCS
海賊版サイトへの出稿停止枠組(継続実施中)	国内の広告事業者・団体、CODA、ABJ
青少年フィルタリング、セキュリティソフト警告(継続実施中)	通信事業者、セキュリティソフト関連ベンダー、 SIA、ABJ
STOP! 海賊版キャンペーン(継続実施中)	各界の協力を得て大きく拡散



出版物海賊版上位10サイト アクセス数合計の月別変化

(日本国内からのアクセスのみ/月ごとにサイト入れ換えあり) 単位=万



海賊版サイト、日本国内からのアクセス 2022年10月 上位10サイト月間アクセス数

(一社ABJ調ベ/simillarwebによる)

順位	サイト名	URL	2022年9月 (単位=万)	2022年10月 (単位=万)	9月→10月 の増減率	態様	侵害物
1			26	6,147	23642.3%	オンライン/(ベトナム系濃厚)	漫画
2			計測不能 (ほぼ0)	3,309	_	オンライン/(ベトナム系濃厚)	漫画
3			2,668	2,578	96.6%	ダウンロード/サイバーロッカー	出版物全般
4			1,996	1,990	99.7%	ダウンロード/トレント	出版物全般、 アニメなど様々
5			1,311	1,369	104.4%	ダウンロード/サイバーロッカー	出版物、映画
6			6,723	1,211	18.0%	オンライン/ベトナム系	漫画
7			1,181	862	73.0%	オンライン/ベトナム系 ※3位のサイトの一部作品を閲覧し ようとするとここにリダイレクト	漫画
8			2,525	535	21.2%	オンライン/ベトナム系	漫画
9			421	334	79.3%	オンライン/(ベトナム系濃厚)	漫画
10			358	323	90.2%	オンライン/(ベトナム系濃厚)	漫画
		上位10サイト 合計	17209	18658	108.4%	9月の合計アクセス数 1億8853万からは微減	-
		内 ベトナム系サイト 合計	10429	2608 (12721)	25.0% (122%)	ベトナム系のサイトの合計アクセス数は2,608と大幅に減少しているが、「ベトナム系濃厚」を含めた合計アクセス数は12,721となり前月比で22%増加となる。	4

昨年秋の合計アクセス数4億から2億と半減 ↓ 大きな成果と喧伝したいが…

新興サイトが続々登場

☞半減? 漫画村最盛期の2倍の2億アクセスという異常事態が継続

応じたった短期間でアクセス数を激増させるサイトが頻出

いつアクセスが爆発的に増加し、最悪の状態に戻るかもしれないという「危機感」がある

その「危機感」の理由=問題は山積み

☞ベトナム系、いまだに逮捕者が出ていない。そのためベトナム発 の新規サイトが続々登場

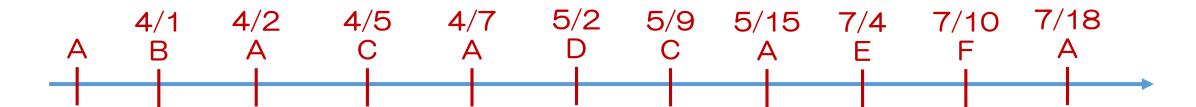
☞ドメインホッピング

☞収益重視で海賊版サイトへの出稿を厭わない海外の広告事業者

☞新サイトにわらわらと群がる海賊版ユーザー

短期間でドメイン移転、リダイレクトを繰り返す海賊版サイトの実例

出版五社 海賊版対策会議作成



- ☞ Aという海賊版サイトが、2022年4月1日に新Bにリダイレクト
- ☞4月2日には、ふたたびAに戻る
- ☞4月5日に、今度は新Cにリダイレクト
- ☞ Aは3カ月半で、リダイレクトの有無又はリダイレクト先を10回変更し、5つの新ドメインに接続

リダイレクトにより新サイトを周知し、アクセスを複数サイトに分散。いくつかのサイトを閉鎖しても、合計のアクセス数を維持、増加できる仕組みか?

また検索エンジンの表示抑制、広告出稿停止、セキュリティソフト 警告、青少年フィルタリングは、ドメインで登録実施。ドメインが変 更されると、一からやり直しとなる 【海賊版サイトAに関して】
2022年3月の月間アクセス数
=約1100万
上位10サイトのうちのひとつ

2022年11月1日現在、

A=閲覧可

ベトナム系

B=アクセス不可

C=閲覧可

D=閲覧可

E=アクセス不可

F=閲覧可

A+C+D+Fの9月の合計

月間アクセス数=約1700万

すべての対策を無効化してしまう ドメインホッピング

☞スライド2で説明した多くの対策が「ドメイン」単位での対応

☞新しいドメインになれば、Oから登録等をやり直す必要がある

☞対策の空白期間が生じてしまう

そして、ドメインホッピングに対応するユーザー

☞以前であれば、ドメインを変更するとユーザー離れが生じ、アクセス数を減らしていた→ドメイン変更をしなかった、漫画BANKやベトナム系2サイトは超巨大サイトに成長した

じていた。 に対したり、 にがしいり、 にがいいり、 にがいいいり、 にがいいいり、 にがいいり、 にがいいり、 にがいいいいり、 にがしいいり、 にがしいいり、 にがいいいり、 にがいいいいいいいいいいい

☞ブログ、掲示板、SNS、検索エンジンの活用

☞サイト運営者によるリダイレクトや複数サイト同時運営といったテクニックの効果も?





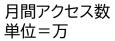




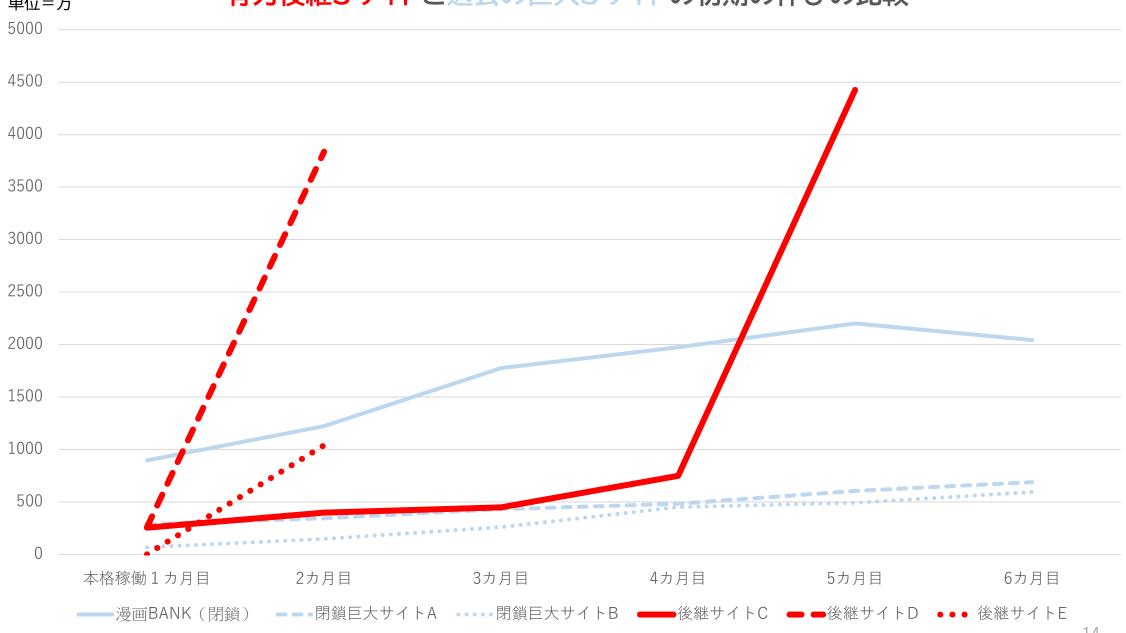
多数存在する海外の確信犯的な広告事業者

- ☞27サイトもの海賊版サイトに出稿していたスペイン・バルセロナの広告事業者は、幸いにも出版社+CODAの要請に従った(従わなかったら、現地で差し止め請求など訴訟を提起する必要があった)
- ☞同様に複数の海賊版サイトに出稿している海外の広告事業者を確認 →対応を検討中
- ☞ それ以外にも、強烈なアダルト系、オイラインカジノ、出会い系、投資 (詐欺?)系の広告を海賊版サイトに出稿している広告事業者は多数
- ☞これまで海賊版サイトをしらみ潰しにしてきたが、その上さらに広告 事業者までしらみ潰しにしなければならない状況

結果。短期間で成長してしまう新サイト



有力後継3サイトと過去の巨大3サイトの初期の伸びの比較



今後の課題

- ☞ベトナムでの対策の強化。早期の運営者摘発
- ☞ICANN、レジストラ、レジストリ等との連携
- ☞広告事業者対応→個別対処ではなく国際的な枠組の必要性
- ☞海賊版ユーザーの啓発(日本だけでなく海外も)
- ☞日本人向けサイト以上に跋扈する各国語海賊版サイトへの対応
- ☞特に海外における正規版流通の促進
- ※中期的には、ベトナム対策が成功したとして、今度は、別の国で同様の 状況が発生する可能性が高い(かつて中国で起こったことがベトナムで 起こったように)。その度ごとに、当該国の政府と連携を深めて、警察を 動かしていたのでは被害拡大を防止できない